

令和元年度 N I E 実践報告（実践1年目）

霧島市立青葉小学校

1 テーマ

読書（新聞）のよさを味わい、自分の世界を広げることができる児童の育成

2 目指す子どもの姿

- (1) 低学年・・・新聞に興味をもち気付いたことを表現できる子ども
- (2) 中学年・・・情報をもとに自分の考えをもち表現できる子ども
- (3) 高学年・・・相手意識をもち自分の考えを表現できる子ども

3 実践内容

- (1) N I E タイムの実施
- (2) N I E コーナー(新聞閲覧)の設置
- (3) 新聞を活用した授業の実践

4 研究の実践

(1) N I E タイムの実施

10月より月に1回、朝の時間（8：30～8：45）にN I E タイムを設けている。新聞を活用した学習活動で、学年で統一した内容を実施している。（学校のブログでも紹介している。）

【2年生】

N I E コーナーにある新聞を活用し、国語の聞き取りのテスト対策を兼ねて。一つの記事の聞き取りの学習を行った。聞きながらメモを取る学習に慣れていないため、今後も継続した指導が必要であると感じた。



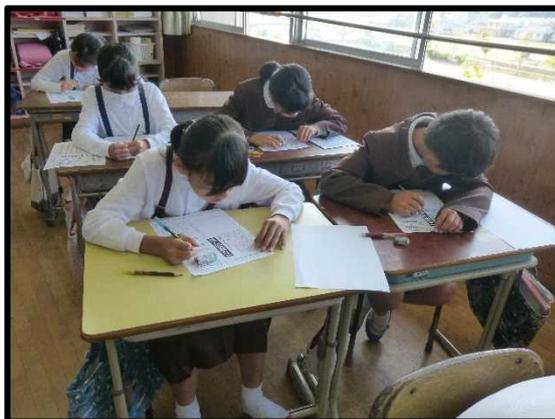
【3年】

語彙力を養うことを目的として「ことばの貯金箱」に取り組んだ。「言葉の貯金箱」とは、気になる新聞の見出しや写真を切り抜き、時間がきたら貯金箱に「チャリーン」と言いながら貯めていく活動である。次時はそれを台紙に貼り、何か書きたいことがあれば吹き出しなどをつけて余白に添える活動を行う。(カラーペンでイラストをつけてもよい。知らない言葉は辞典で調べるとなおい)



【5年】

南日本新聞社のホームページよりダウンロードしたワークシートに取り組ませた。社会の内容で学習は読み取りであったが、いろいろな知識にふれることができた。やや文章を読むことにやや抵抗を感じていた様子だったが、新聞をじっくり読む機会がないので、新鮮さを感じている様子だった。



(2) N I Eコーナー(新聞閲覧)の設置

おやじの会の協力により新聞閲覧台を制作してもらった。子どもの目線の高さに合っており、閲覧しやすくなっている。従来は、畳のコーナーに長机を置き、その上に新聞を置いていたが、閲覧台のほうが子どもたちが気軽に新聞を読むことができています。そのため、閲覧する子どもが増加している。



(3) 新聞を活用した授業の実践

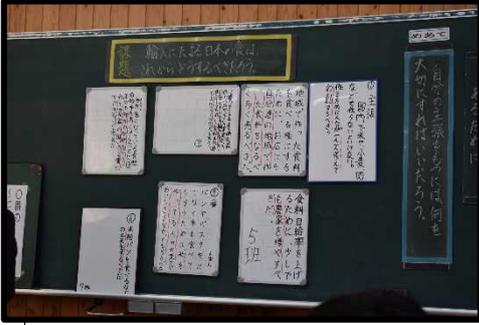
11月に第6学年の国語科「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」とNIEを関係付けた研究授業を行った。(市教育委員会指導主事、南日本新聞社の方にもお越しいただいた。)

① 目標

新聞記事から得られた事実を根拠にして、自分なりの理由を加えながら自分の主張を書くことができる。

② 実際

過程	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ・見通す 調べる・深める	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてを確認する。 自分のもつ主張には、何を大切にすればいいだろう。 ※学習の流れを知る。 3. 特に興味をもった事実から、自分の主張やその理由をワークシートに書く。	○ 前時に全員が同じ新聞記事を使って事実だけを押さえておき、各自に持たせておく。 ○ 1時で学習した「三角ロジック」の構成を確認して、主張と事実、理由の書き分け方を理解させる。

調べる・深める	<p>4. グループになり，お互いの主張を交流し合う。(グループ活動)</p> 	
	<p>5. グループの中で出てきた主張を発表する。</p>  	
まとめる	<p>6. 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の主張の根拠になりそうな，事実をしっかりと押さえることが大切である。</p> </div>	<p>○ グループで伝え合った中で，うまく主張をまとめている人は，何に気を付けたのか，どんなことが主張につながるのかということを押さえさせ，みんなで確認する。</p>

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 環境を整えたり，新聞を活用した学習活動を設定したりすることにより，全体的に新聞に親しむ機会が増えた。
- ・ 6年生では，研究授業を通して，事実をもとに自分の考えをもつことができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・ 新聞に親しむ機会が多い子どもと少ない子どもの個人差が大きい。
- ・ 発達段階上，新聞に書いてある内容を正確に読み取ることが難しい。
- ・ 教科等の特色をふまえた上で，系統的な指導の確立が必要である。